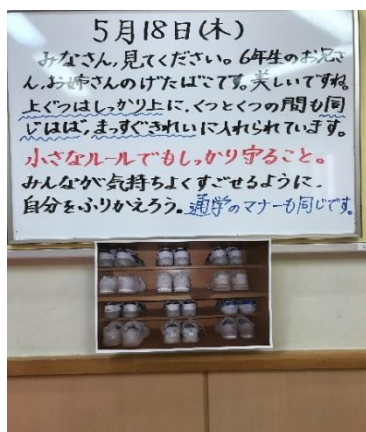


揃えることと 違えることⅡ

5月も中旬を迎えると本当に頬を伝う風が心地よく感じます。校庭で元気に遊ぶ子どもたちの歓声、そして、教室や特別教室から響いてくる子どもたちの歌声、本当に心が洗われるような思いです。

さて、附属小の日々の教育活動を支える一つに各学年の廊下の掲示板があります。どの学年も先生方の子どもに対する「思い」が伝わってきて、いつも感心して読ませてもらっています。写真の左は3年生の掲示板です。靴の入れ方の指導ですが、6年生を手本に、しかも写真付で紹介しています。また、右側は1年生の掲示板。写真を使って「きれいにつかうと気持ちがいいね。」とコメントしています。生活指導をする場面でも、先生方が子どもに寄り添い、意欲を大事に指導していることがわかります。大人が当たり前のようにできることでも、子どもたちにとっては難しいことがたくさんあって、だから子どもができるまで手をかけ、声をかけることが大事なのだと思います。そしてできたら大いに褒めてあげたいものです。



子どもを指導する、ということは、結局、繰り返し粘り強く子どもをめんこがってやることではないでしょうか。そして、このような生活指導は、一人の先生が頑張ってもだめで、教師集団、保護者が一体となって行うからこそ効果的なのだと思います。

【左は3年生の廊下の掲示板 右は1年生、どちらも生活指導】

さて昨日で27コマの部内授業も全て終了しました（残念ながら5人の先生方の授業は出張等のため参観できませんでした）。熊谷先生の問題解決過程をふまえた上で45分で完結した理科の授業、拓郎先生の資料提示とアナログを大事にした社会科の授業、そして岡本先生の1年生を45分間楽しませた音楽の授業と子どもたちと先生方の姿から附属小学校の「底力」を感じることができました。3人の先生方に共通していることは教えたことが実にはっきりしている、ということです。このような授業を日々共有できる私たち、そして、何よりこのような先生方の授業を受けることができる附属小の子どもたちはとても幸せだと思いました。

働き方改革、負担軽減が叫ばれる中、附属小の先生方を前に何ができるか、吉川校長先生と共にとっても重い課題を突きつけられています。でも、私たち教育公務員として教育基本法第9条の精神は決して忘れてはならないとも思います。学校は子どものためにあるのですから。

(文責：副校長 手代木)